2019.07.30

春木 豊　先生のこと

小嶋祥三

もう半年も前のことだが、2 月 9 日に春木豊先生が亡くなった。春木先生は早稲田大学での私の卒論の主査だった。今年は奥様が代筆された年賀状をいただいた。脳血管障害で長い間療養されていたので、病状がよくないのかなと心配していた。享年 86 歳とのこと。いつだったか、リハビリ中の先生と電話でお話をしたのが最後となった。

春木ゼミは学習心理学のゼミだった。ただ、ゼミでは上級生が下級生の卒論を指導するのが一般的だった。わたしは上智大に行かれた山中祥男さんと、実中研に行かれた川口武さんにいろいろと手ほどきを受けた。当然、ゼミで本や論文を読んだのだろうが、春木先生には申し訳ないが、ほとんど記憶に残っていない。マア、勝手に好きなことをやっていたのだろう。早稲田ではそれが許された。

わたしは博士課程の途中まで早稲田にいたが、その頃の先生のテーマは動物の観察学習など社会的学習だったと記憶している。春木先生が Bandura のことを話していたのをかすかに覚えている。わたしの滞米中にカリフォルニアで先生にお会いした。Stanford 大学の Bandura 教授のところに行かれたのではなかろうか。当時、特に動物の学習心理学では Hilgard & Marquis' Conditioning and Learning がバイブル的な存在だった。わたしは Olds が発見した intracranial self-stimulation に興味を持っていた。それは生理学的心理学の領域に属するものだった。社会的学習は若いわたしには興味を持てなかったようだ。聖徳大学へ行かれた 2 学年上の都築忠義さんが社会的学習の実験を行っていた。その後の先生の研究をわたしはよく知らない。人間を対象にした研究に移って行かれたのではなかったか。というわけで、大学の指導教授をしていただいたのに、わたしが京大・霊長研に移ってからは、ほとんど学問的な接触がなかった。

それでも、学習ゼミ人々や動物小屋のことを時々思い出す。確か、春木先生が結婚された時に、奥多摩（多分）の山にハイキングに行った。山登りをやっていた山中さんが下駄でやってきたが、地下足袋に履き替えたのには驚いた。それはわたしが学部の 2，3 年の時ではなかったろうか。信濃町の慶應義塾大学医学部の図書館が文献を集める場だったが、川口さんとは時に一緒になった。また、早稲田に残られた木村裕さんには、わたしが霊長研に移ってからも、いろいろとお世話になった。小杉正太郎先生がラットの活動量を測定する装置を考案したのが記憶に残っている。動物小屋にはラットやネコだけでなく、サル（確か、ニホンザル）がいた。春木先生は大阪大の糸魚川先生たちと一緒に研究をされていたので、その関係だろうか。わたしは縁の下傾向が強いので、正月や学園紛争の時など動物小屋のエサ当番を喜んでやっていた。